資料２

飯田・リニア駅前空間
デザインノート（案）



2019 年 3 月 26 日デザイン会議時点の検討資料のため、今後内容が変更されることがあります。

目次＋デザインノートの位置づけ

リニア駅前空間の考え方	01
駅前空間の設計方針と全体計画	04
設計方針	
1：アクセスやバリアフリーに優れた駅前空間	06
2：住民や来訪者の居場所となる駅前空間	08
3：伊那谷の風景の魅力を引き出す駅前空間	12
4：人のつながりと、伊那谷全域へといざなう駅前空間	16
5：時代を先取りし、変化に対応できる駅前空間	18
持続可能な魅力発信施設の運営に向けた仕組みづくり	20
付録 1：基本設計の検討経緯	22
付録 2：基本設計の検討体制	24

本デザインノートは、リニア駅周辺整備デザイン会議およびリニア駅周辺整備ワークショップなどでの議論をとりまとめた、リニア駅周辺整備における基本方針です。

飯田市は、このデザインノートに則り、リニア駅周辺整備に関わるさまざまな計画や事業を実施していきます。行政・事業者・市民協働のもと、リニア駅周辺を魅力的な空間とし、飯田市および信州・伊那谷のさらなる発展を目指します。

そのために、

◆行政（飯田市および各関係機関）は、「信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口」を目標に掲げ、本デザインノートに基づきリニア駅前空間を実現します。

◆事業者（つくる側）は、本デザインノートを踏まえ、デザイン監修との調整を図りながら、信州・伊那谷の風土を活かした魅力的な空間を創出します。

◆事業者（つかう側）は、本デザインノートを踏まえ、信州・伊那谷の魅力を広く発信し、市民や来訪者の居場所を創出するとともに、持続的に運営します。

◆市民は、本デザインノートを踏まえ、駅周辺に、愛着を持ち続けることが出来るような取組みを主体的に考え実践します。

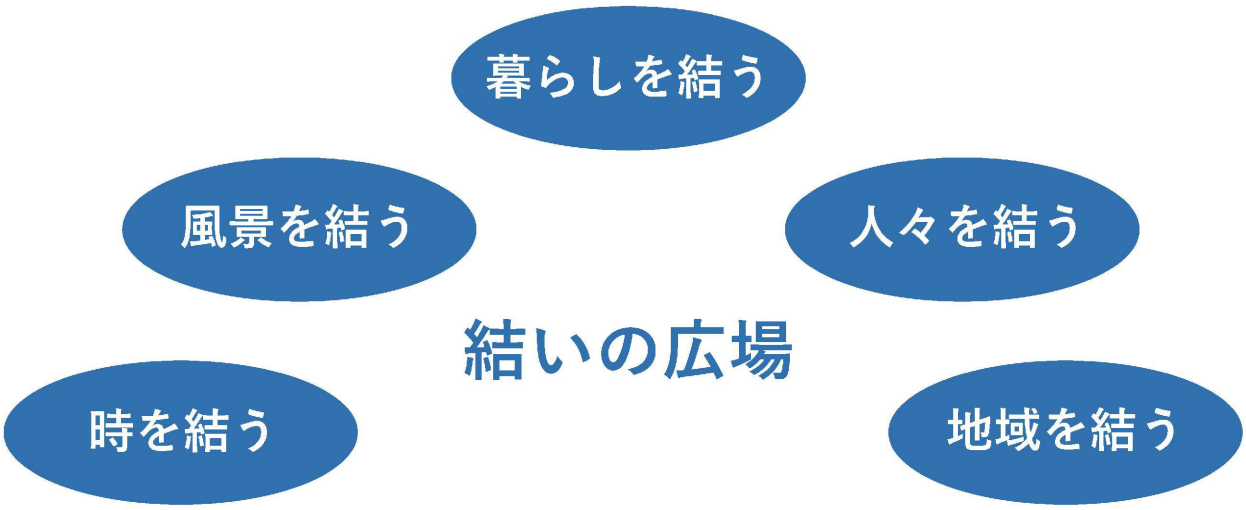
結いの広場ー暮らしと風景をつなぐ駅

本地域は、南アルプスや中央アルプスを望む信州・伊那谷の南部に位置し、三州街道や天竜川の交流を通じ、東西日本を結ぶ文化の要地として発展してきました。この信州・伊那谷に、リニア中央新幹線駅が開業されることにより、人、モノ、情報等の交流と交通利便性が飛躍的に高まります。

また、旧来から農業等を生業として、田んぼや集落が点在する田園環境を有する一方、交通の要衝としての地理的条件と、進取性と学究性に富んだ市民の気質が、食文化や人形文化等の信州・伊那谷の魅力を育んできました。

こうした地域や暮らしの履歴を尊重し、先人たちの意思を引き継ぎながら、信州・伊那谷の新たな「結び目」を作ります。その結び目は、信州・伊那谷の風景に溶け込み、人が主役となる場所として、そして、来訪者が信州・伊那谷の風景と出会い、この地の文化や暮らしを感じながら、新たな交流と地域の活力を育むことができる場所とします。

大都市と緑豊かな環境が結びつく新しいライフスタイルの提供、伝統技術と先端技術の融合など、リニア中央新幹線を介した広域的な繋がりにより、「過去と未来」、「高速移動とスローライフ」など、この地だからできる信州・伊那谷の風景・暮らしをつなぐ、やわらかな結び目としての広場＝「結いの広場」を目指します。





リニア駅前空間の考え方



【リニア駅周辺整備区域が目指す姿（基本的な理念）】

信州（ローカル）・伊那谷の個性で世界（グローバル）を惹きつけ、世界へ発信する玄関口（ゲートウェイ）

【整備コンセプト】

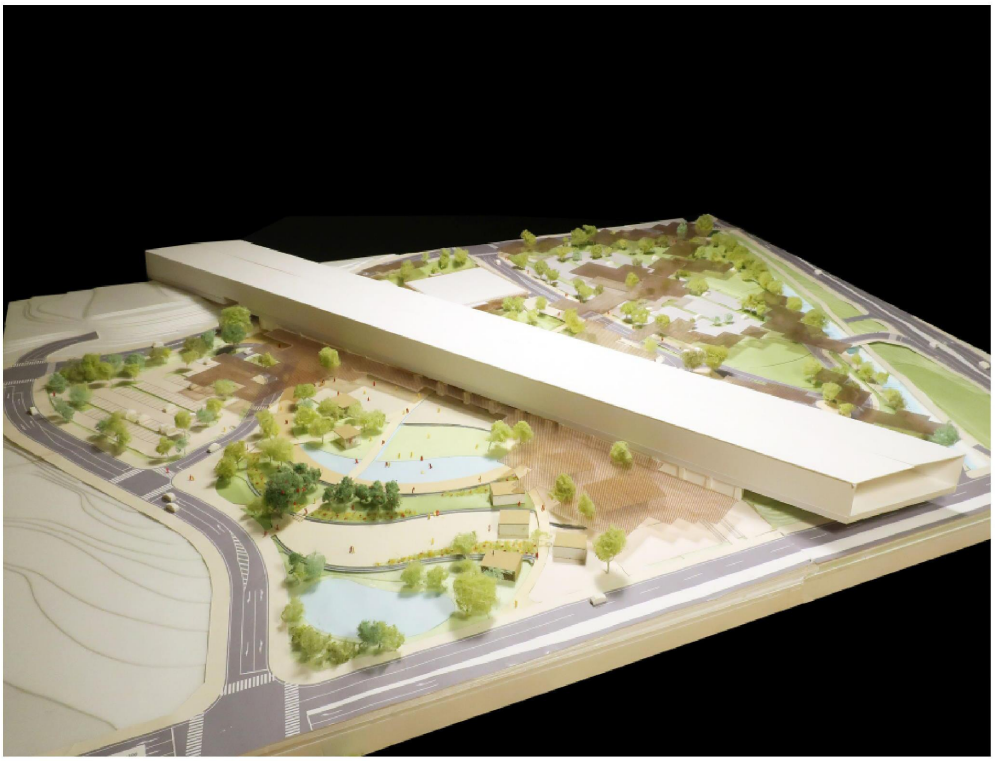
①機能的でコンパクトな駅空間　ー　高度なトランジットハブの形成によりスムーズな乗換えを実現

・各交通機関への円滑な移動を可能にし、乗換利便性が高いコンパクトな空間
・天候バリアフリーやユニバーサルデザインの視点を踏まえた駅空間
・利用者がくつろぎ、必要な情報に接することができる施設や必要なものを揃えられる駅空間

②信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間　ー　来訪者へのおもてなしを実現

・来訪者を信州・伊那谷各地へと誘い、波及効果を高めるような、地域の魅力や情報を発信する駅空間
・信州・伊那谷の地場産品や伝統芸能等に触れられる駅空間
・美しい山並みや日本の原風景とも言える里山の風景を眺望できる駅空間





③自然との調和を目指した駅空間　ー　豊かな自然環境に配慮し環境モデル都市飯田を実現

・新たに作り出される景観と伊那谷の美しい自然が調和した駅空間
・多面的な機能を持つグリーンインフラが整備された駅空間
・再生可能エネルギーの活用や低炭素社会の取り組みの場となる駅空間

④地域と一体化した駅空間　ー　地域の一体化を実現

・地域住民が日常生活で便利に使える駅空間
・イベントや行事など地域住民がコミュニティ活動の場としても活用できる駅空間
・防災機能を果たし、非常時には地域住民とリニア駅利用者が安全に避難できるとともに、
　帰宅困難者にも対応できる駅空間

※リニア駅周辺整備基本計画（平成 29 年 6 月）より

駅前空間の設計方針と全体計画

設計方針

1：アクセスやバリアフリーに優れた駅前空間

・広域へアクセスしやすい北側交通広場と、地域の人々が使いやすい南側乗降場で、**安全で利便性の高い乗換え**を実現します。
・**わかりやすく、乗換えしやすい駅空間**とします。
・**天候にも対応したバリアフリー環境**とし、サイン類をはじめ**ユニバーサルデザイン**とします。

2：住民や来訪者の居場所となる駅前空間

・駅の中心に南北をつなぐ広場を設け、**人が主役の緑とにぎわいの空間**をつくります。
・**リニアに乗る人も乗らない人も、若い世代も高齢世代も楽しめる空間**とします。
・広場は、**大小様々な使い方ができ、居心地の良い空間**とします。
・**伝統文化の継承や地域コミュニティを高める空間**とします。

3：伊那谷の風景の魅力を引き出す駅前空間

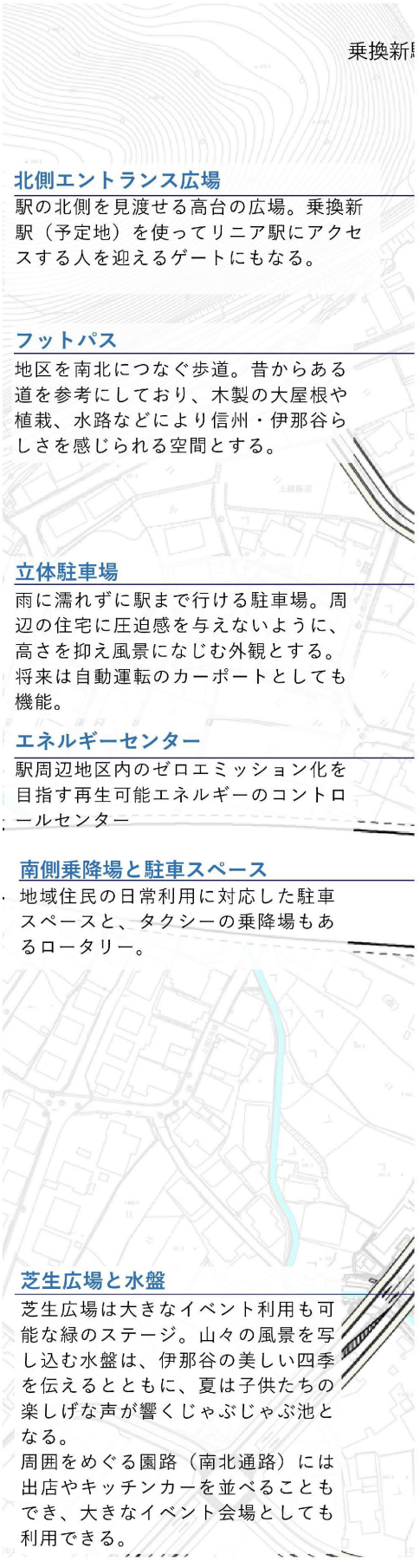
・地域風土の特徴を活かし駅を出た瞬間から**信州・伊那谷らしい風景を五感で味わえるランドスケープ**とします。
・人が主役の広場と地場材を利用した大屋根により、**自然の魅力と都市的な魅力が融合した、ここにしかない空間**をつくります。
・**歩くのが楽しくなる回遊性の高い駅前空間**とします。

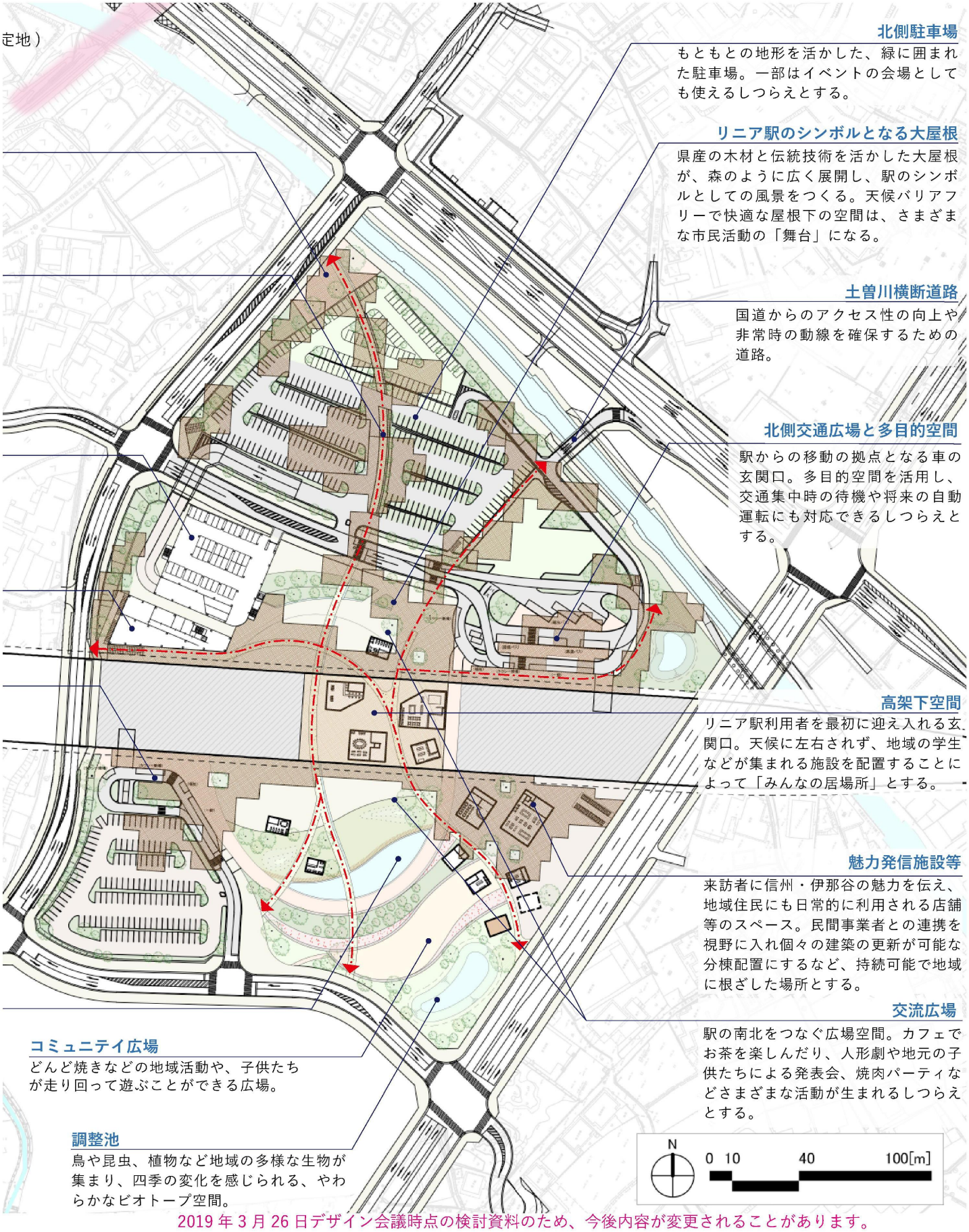
4：人のつながりと伊那谷全域へといざなう駅前空間

・**人と人の出会いや、人とモノの出会いが生まれる空間**とします。
・魅力的な地域や店舗、伝統芸能やアクティビティなどの情報を提供し、**長野県や伊那谷全域へいざなうきっかけ**をつくります。
・**近隣住民の生活環境を守り**つつ、周辺に良い波及効果を生み出すよう、**周辺地域との回遊性を確保**します。
・将来にわたり活用されるよう、**運営者・事業者の様々なニーズに対応できる空間**とします。

5：時代を先取りし、変化に対応できる計画

・さまざまな使い方ができる**フレキシブルな空間**とします。
・自動運転や次世代モビリティ、再生可能エネルギーに加え、ライフスタイルの変化など**社会のニーズに対応**できるようにします。
・グリーンインフラを積極的に用い、環境に優しく、**防災機能と維持管理に優れる、持続可能な空間**をつくります。





北側駐車場
もともとの地形を活かした、緑に囲まれた駐車場。一部はイベントの会場としても使えるしつらえとする。

リニア駅のシンボルとなる大屋根
県産の木材と伝統技術を活かした大屋根が、森のように広く展開し、駅のシンボルとしての風景をつくる。天候バリアフリーで快適な屋根下の空間は、さまざまな市民活動の「舞台」になる。

土曽川横断道路
国道からのアクセス性の向上や非常時の動線を確保するための道路。

北側交通広場と多目的空間
駅からの移動の拠点となる車の玄関口。多目的空間を活用し、交通集中時の待機や将来の自動運転にも対応できるしつらえとする。

高架下空間
リニア駅利用者を最初に迎え入れる玄関口。天候に左右されず、地域の学生などが集まれる施設を配置することによって「みんなの居場所」とする。

魅力発信施設等
来訪者に信州・伊那谷の魅力を伝え、地域住民にも日常的に利用される店舗等のスペース。民間事業者との連携を視野に入れ個々の建築の更新が可能な分棟配置にするなど、持続可能で地域に根ざした場所とする。

交流広場
駅の南北をつなぐ広場空間。カフェでお茶を楽しんだり、人形劇や地元の子供たちによる発表会、焼肉パーティなどさまざまな活動が生まれるしつらえとする。

コミュニテイ広場
どんど焼きなどの地域活動や、子供たちが走り回って遊ぶことができる広場。

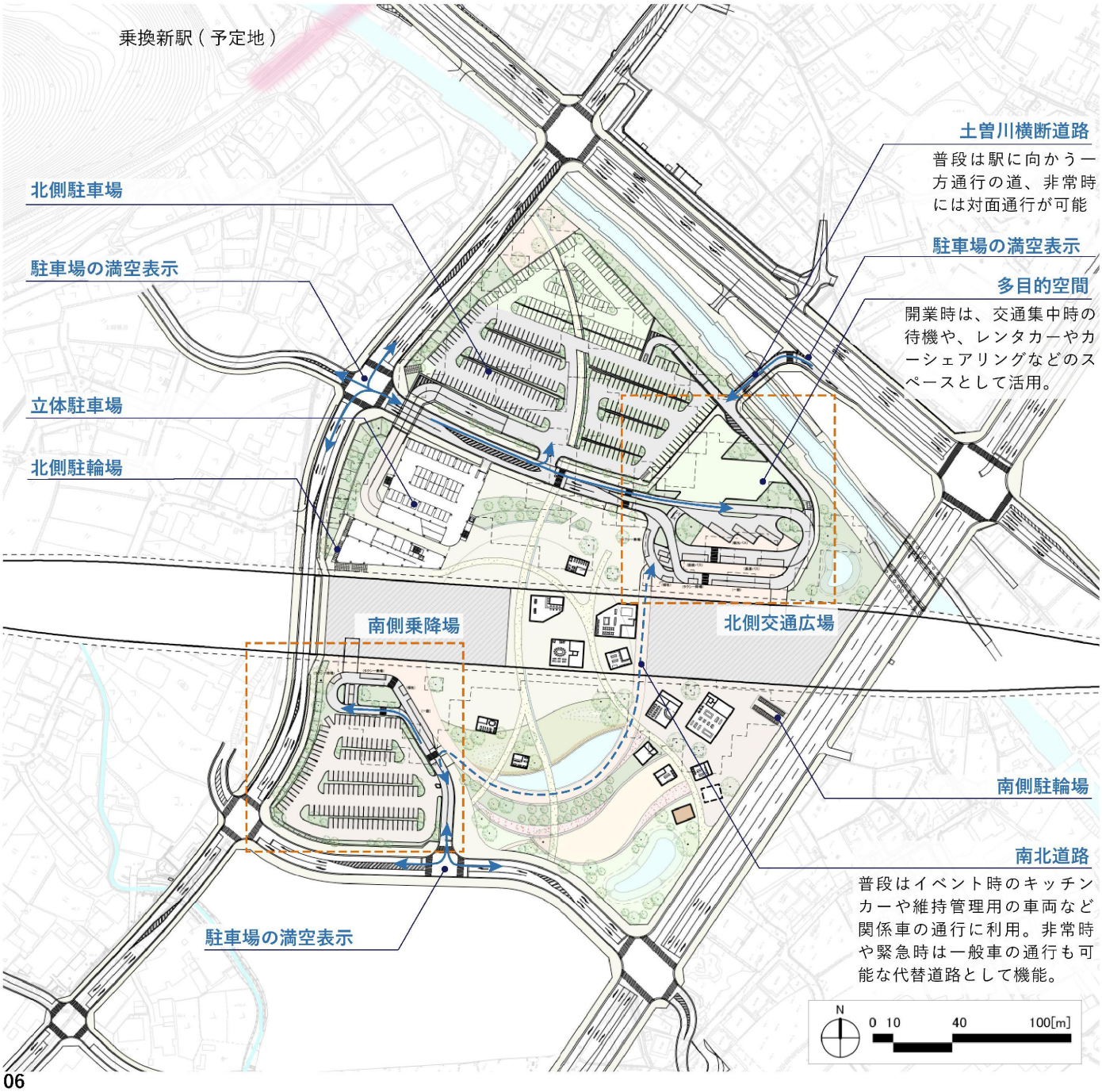
調整池
鳥や昆虫、植物など地域の多様な生物が集まり、四季の変化を感じられる、やわらかなビオトープ空間。

2019 年 3 月 26 日デザイン会議時点の検討資料のため、今後内容が変更されることがあります。

設計方針１：アクセスやバリアフリーに優れた駅前空間

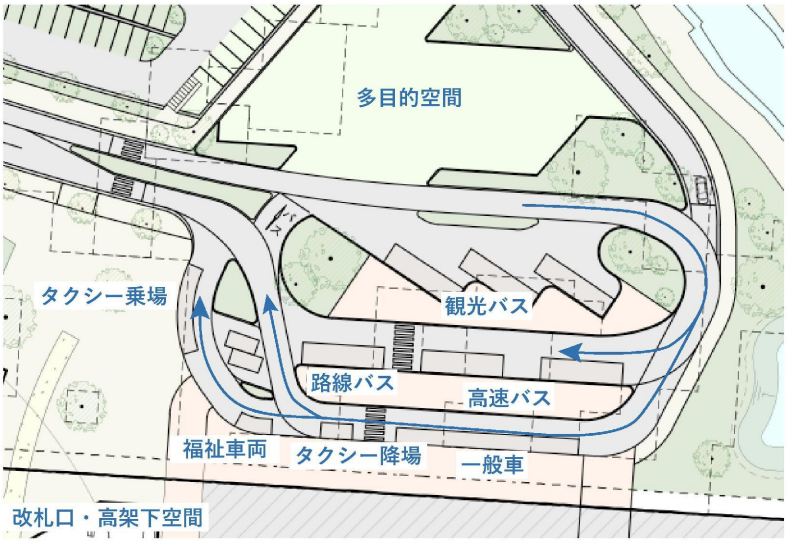
交通

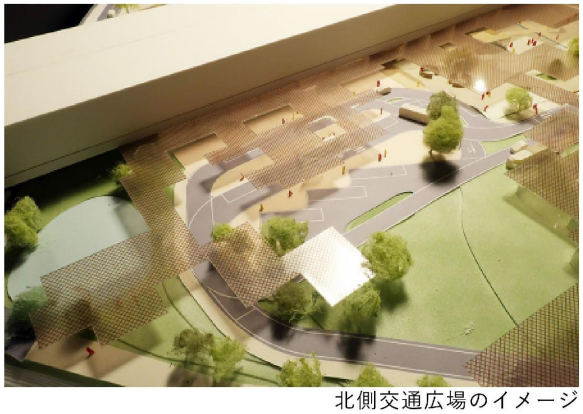
・公共交通を集約した北側交通広場と、地域の人々が使いやすい南側乗降場を設け、**安全で利便性の高い乗換え**を実現します。
・訪れる全ての人が、**わかりやすく、乗換えしやすい駅空間**とします。
・改札から屋根のある平坦な道を歩いて乗り換えができるよう**天候にも対応したバリアフリー環境**とし、サイン類をはじめ**ユニバーサルデザイン**とします。
・**駐車場へのアクセス**もできる限り**天候バリアフリー**とします。



◆北側交通広場：公共交通の集まる交通広場

・広域へアクセスしやすい北側には公共交通が集まる交通広場を設けます。
・交通機能ごとに車両動線を分離し、乗降場における交通の交錯を防ぎます。
・駅から連続する大屋根により天候バリアフリーを確保します。
・緑地を積極的に設け、緑豊かな交通広場とします。
・公共交通の乗降場に加え、観光シーズンの交通集中時に対応できる多目的空間を隣接地に確保します。
・一般車の乗降場も確保します。

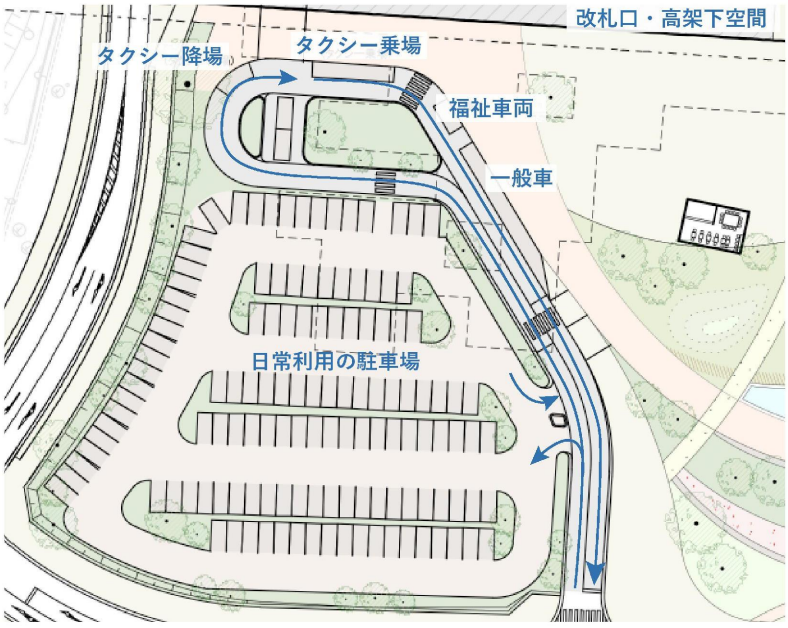


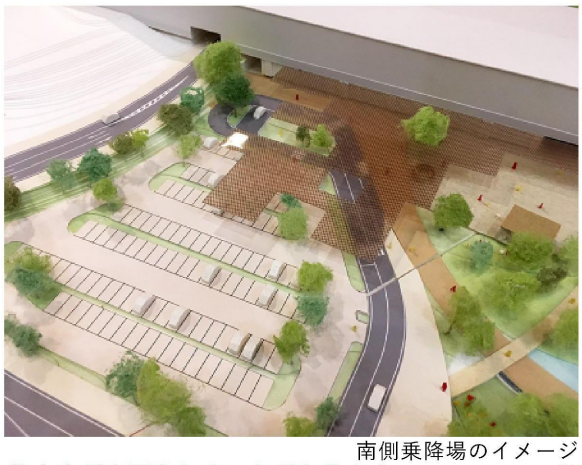


北側交通広場のイメージ

◆南側乗降場：市民の日常利用に対応した乗降場

・周辺へアクセスしやすい南側に日常利用に対応した乗降場を設けます。
・駅から連続する大屋根により天候バリアフリーを確保します。
・緑地を積極的に設け、緑豊かな交通広場とします。





南側乗降場のイメージ

設計方針２：住民や来訪者の居場所となる駅前空間



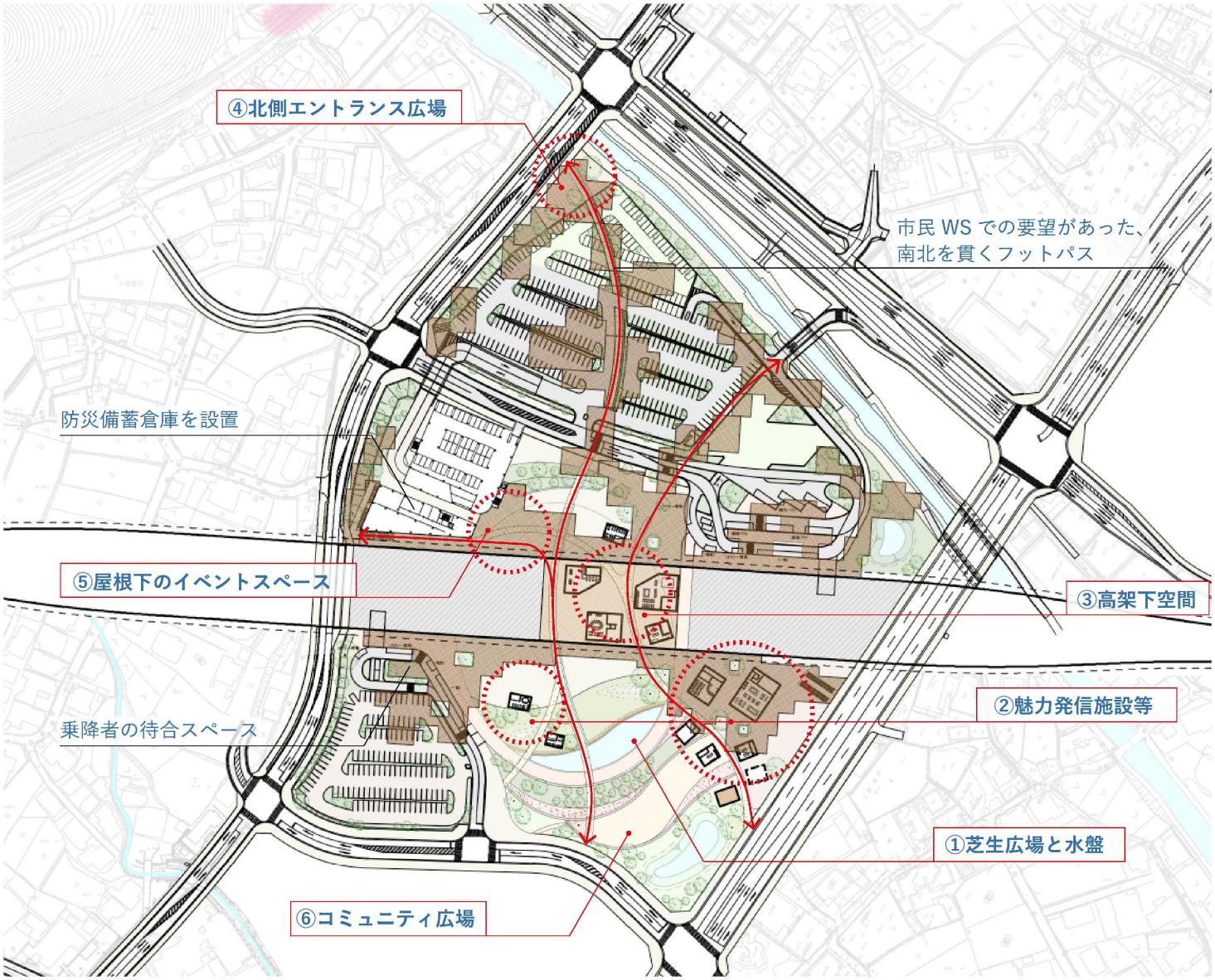
・駅の中心に南北をつなぐ広場を設け、その周りに交通広場や魅力発信施設や店舗を配置することで、**人が主役の緑とにぎわいの空間**をつくります。
・地元の食材やお酒を味わったり、家族でのんびり過ごしたり、散歩で立ち寄ったり、学生が課外活動をしたり、様々なイベントで盛り上がるなど、**リニアに乗る人も乗らない人も、若い世代も高齢世代も楽しめる空間**とします。
・広場空間は、**大小様々な使い方**ができ、冬の寒さや夏の暑さといった**気候にも配慮した居心地の良い空間**とします。
・水引きや人形劇など**地域の伝統文化の継承**や、どんど焼きや盆踊りなど**地域のコミュニティの絆を高める空間**とします。

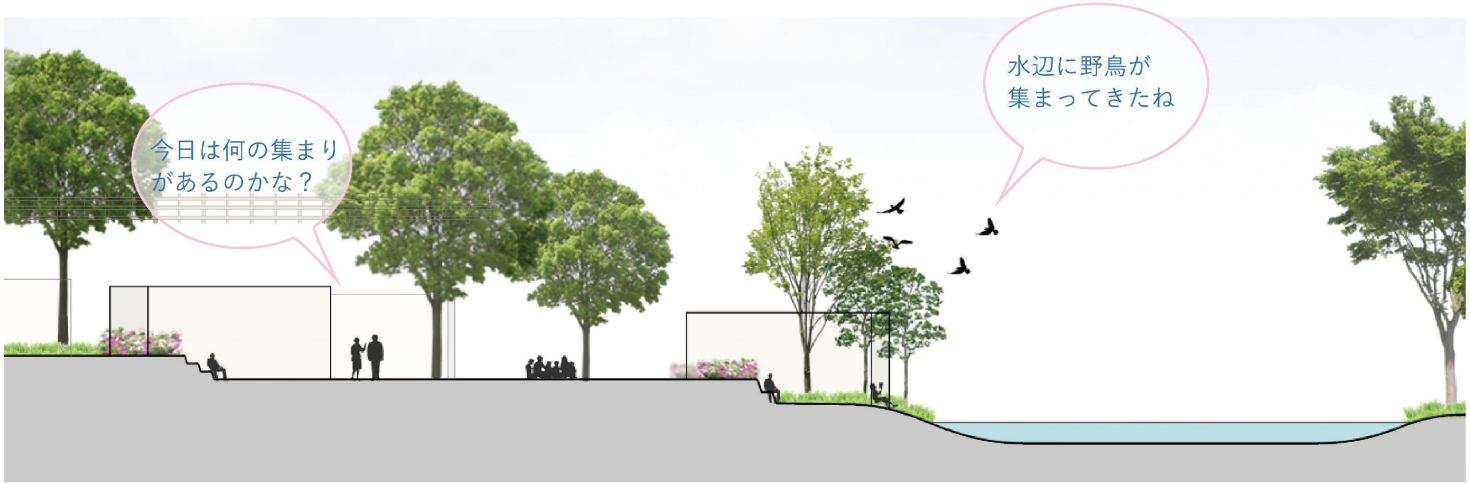


南側広場空間のイメージ

南側広場空間の断面イメージ







緑地 | コミュニティ広場 | 調整池エリア

2019 年 3 月 26 日デザイン会議時点の検討資料のため、今後内容が変更されることがあります。

設計方針２：住民や来訪者の居場所となる駅前空間

◆日常生活で便利に利用できる空間

①芝生広場と水盤

地形を生かした芝生広場と水盤。四季の山々を写し込む水盤は、夏には子供達の遊び場となります。芝生広場は大きなイベントも可能な緑のステージとなります。



②魅力発信施設等

大屋根と一体となった店舗スペース。個々での建築の更新が可能な分棟配置とします。



③高架下

待合施設やインフォメーション、ライブラリーなど、天候に左右されず集まることの出来る「みんなの居場所」とします。



④北側エントランス広場

地域の人が立ち寄り易い場所とし、来訪者にも、乗換新駅との接続が分かりやすいゲート空間とします。



◆イベントや行事など地域住民がコミュニテイ活動の場としても活用できる空間

⑤大屋根の下のイベントスペース

日常的に日よけ、雨除けとなる大屋根の下の空間は、
イベント時にはさまざまな市民活動の場となります。



◆暮らしの履歴を感じられる空間

⑥コミュニティ広場

地域の方々が暮らしてきた歴史に敬意を払い、現存する建物（蔵など）や樹木などの一部を遺すことや、地域の活動が展開できる場とすることで、新しい建物･植栽と調和させつつ、地域の「暮らしの履歴」も感じられる空間とします。



災害時の対応について

エネルギーセンター付近に防災備蓄倉庫の設置を検討します。
また、大屋根の下の空間や高架下の空間は、一時避難所として機能します。



防災備蓄倉庫のイメージ　出典：金沢市



防災パーゴラのイメージ　出典：コトブキ

設計方針３：伊那谷の風景の魅力を引き出す駅前空間

風景

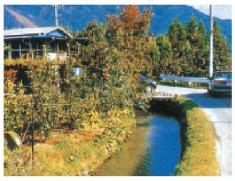
・天竜川に向かって傾斜する地形、豊かな流れの用水、南アルプスや伊那山地への眺望、樹木や草花など地場の植生、多様な生態系という地域の特徴を活かし、駅を出た瞬間から**信州・伊那谷らしい風景**を五感で味わえるランドスケープとします。
・人が主役の広場と地場の木材を利用した大きな屋根を合わせ、**自然の魅力と都市的な魅力が融合した、ここにしかない空間**をつくります。
・歩くのが楽しくなる**回遊性の高い駅前空間**とします。

◆地域らしさを感じさせる空間

・信州・伊那谷らしい段丘地形を活かしたスケールづくりと空間構成。
・南北の広場をつなぎ、周辺へと広がることで駅と地域をつなぐフットパス。
・高低差のある地形や水を活かしたグリーンインフラ。
・周辺地域とスケールをあわせた分棟配置の施設群。
・伊那谷の多様な自然を活かした植生（高木、草木類）を配置。


現場周辺の田んぼと集落


どんど焼きの風景
出典：飯田市


伊賀良を流れる新井川
出典：飯田市教育委員会


麻績の里付近の石積み


段丘地形と棚田（よこね田んぼ）
出典：長野県公式観光


ブナ，アベマキなどの雑木林
出典：飯田市



◆植栽計画の基本的な考え方

・飯田・下伊那地域には、約 2,300 種の植物が分布していることから、地域の樹種、草花により、信州伊那谷の四季の景観を演出する彩り豊かな植栽とします。

駅南側の植栽

◆南側広場は、飯田下伊那地方の丘陵帯で生育が見られる常緑・落葉広葉樹等を中心に構成します。

◆丘陵帯の雑木林、農地、果樹園など周辺地域の里地里山を表出する樹種選定を行い、周辺と一体的な植栽景観を演出します。

駅北側の植栽

◆北側広場は、飯田下伊那地方の丘陵帯の上部や低山帯で見られる常緑・落葉広葉樹や常緑針葉樹等の多様な植栽で構成します。

◆外周の並木と一体的に、土曽川や北側の山並み、遠景のアルプスの峰々との調和を演出します。

ポイント・シンボル植栽

・アイストップやランドマークなどの焦点となる植栽は、駅前空間の顔となり、地域の拠りどころとなるため、選定方法にも考慮して、地域の方の愛着深い郷土種を選定します。


りんごの木


ハナノキ

◆歩くのが楽しくなる空間

・計画敷地の北側は土曽川が流れ、計画敷地とその周辺には田んぼや民家が広がり、それらを縫うようにして水路が走っています。

本計画は、このような周辺の環境を生かしつつ、駅の南北を貫くフットパスや土曽川沿いに歩行空間を設け、歩くことが楽しくなる回遊性の高い空間とします。

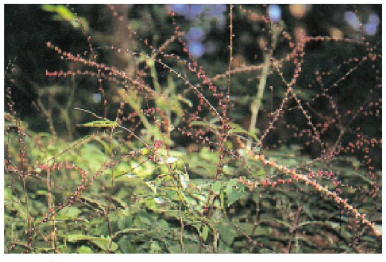

土曽川と周囲の山並み


石積みと水路


民家と田んぼ

歩行空間沿いの植栽

・人が触れやすい環境となるフットパス沿いには郷土種を中心に、彩り豊かな植栽を配置します。


ミズヒキ

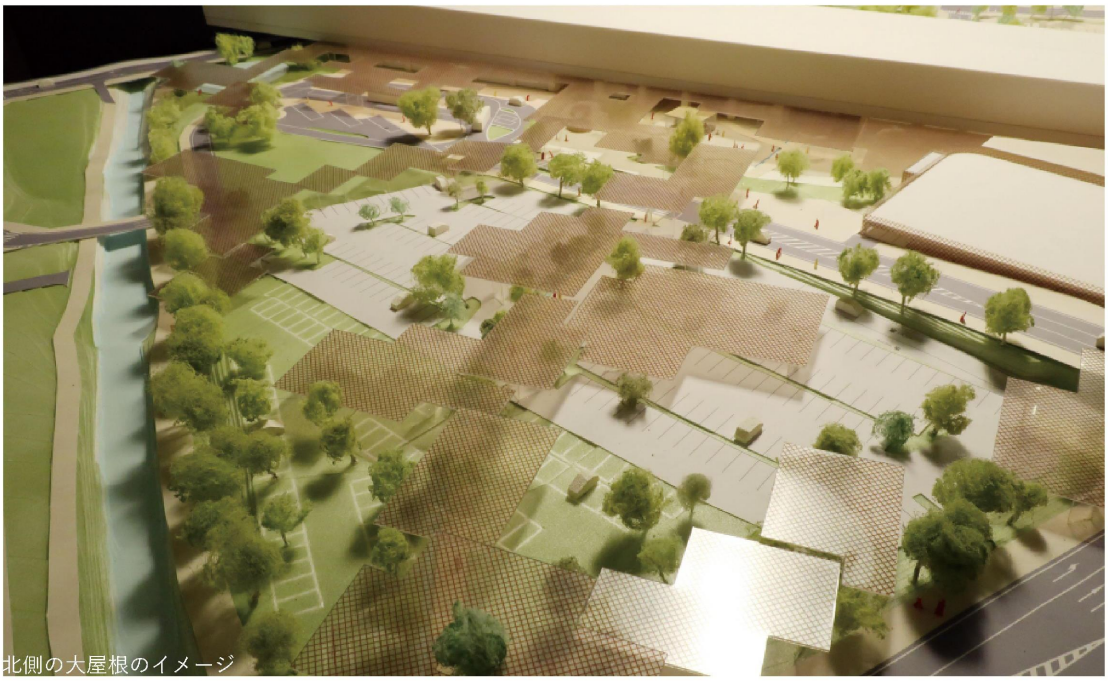

ミツバツツジ


ノコンギク

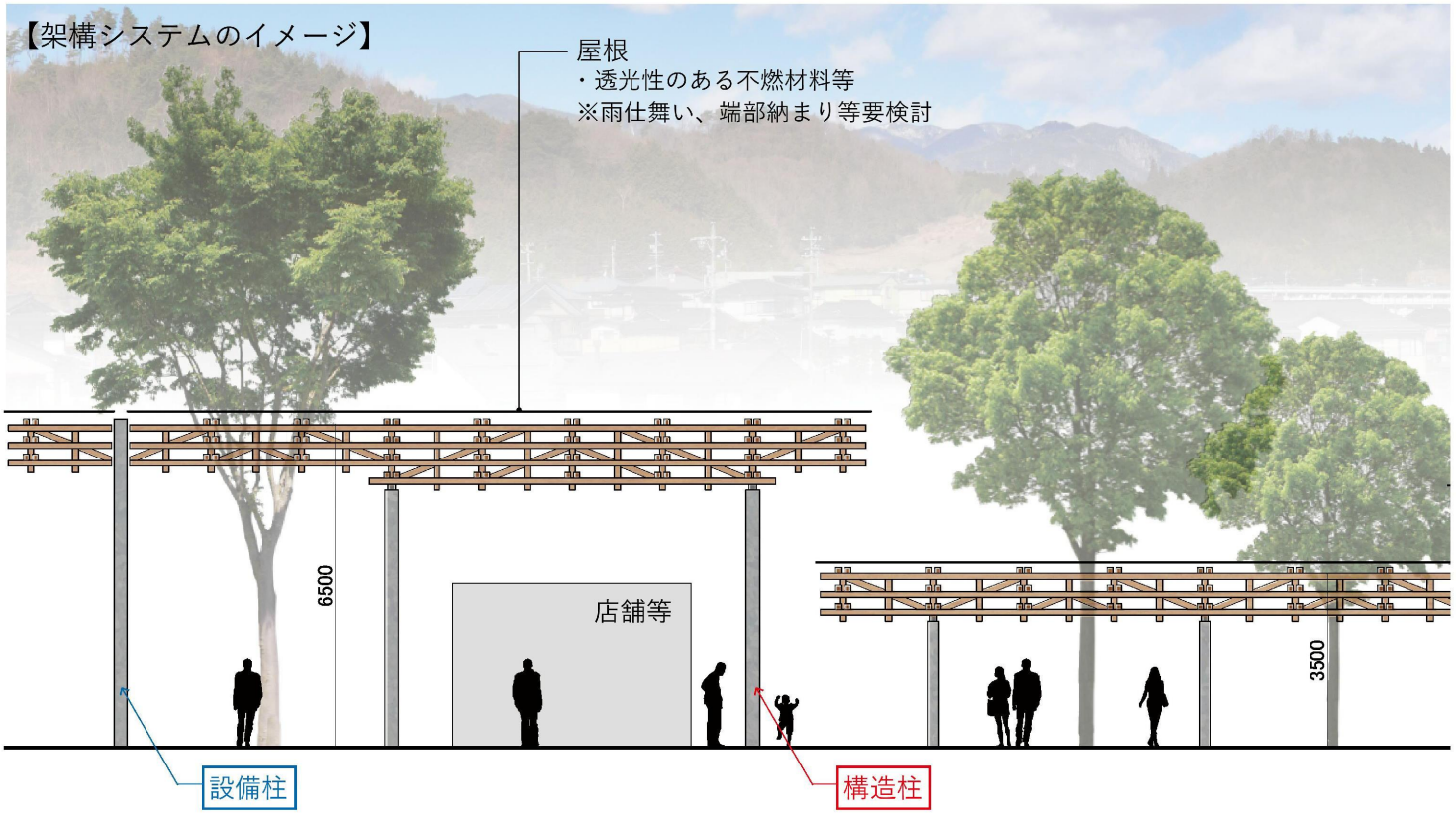
設計方針３：伊那谷の風景の魅力を引き出す駅前空間

◆リニア駅のシンボルとなる大屋根

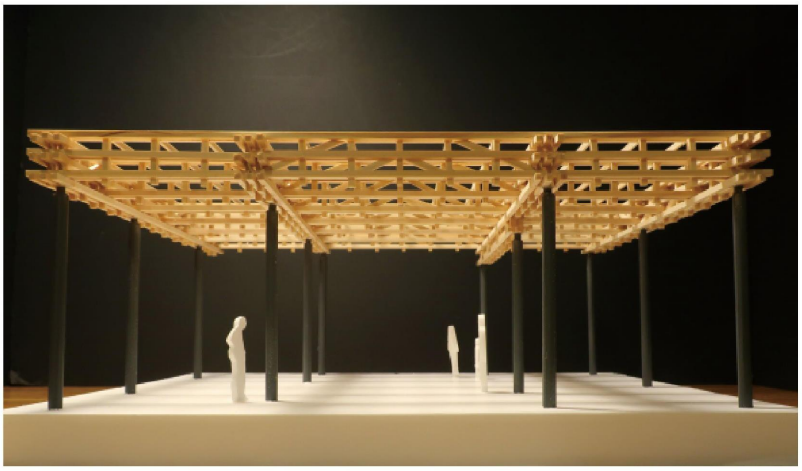
・木製の大屋根が「森」のように南北に広がり、他にはないリニア長野県駅のシンボルとします。
・長野県内各地の木材を用い、日本の伝統技術による工法を検討します。
・日陰をつくり、天候バリアフリーに寄与する空間とします。
・大屋根がさまざまな市民活動の場をつくります。



北側の大屋根のイメージ

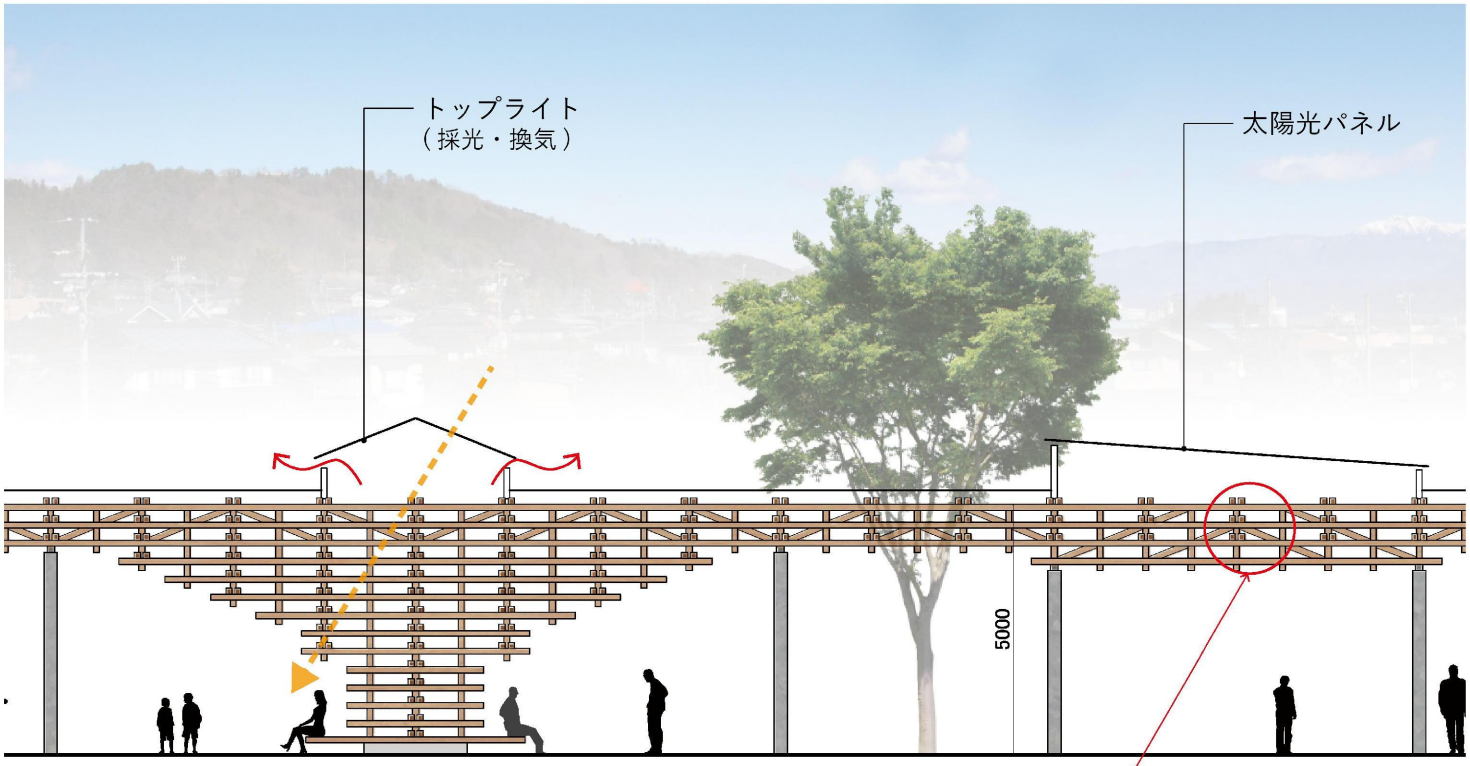






【材料・工法について】

・地場産の木材をできるだけ手を加えずに、（集成材等でなく）無垢の製材のまま利用します。
・飯田市のみでなく、長野県全体から木材を集めることで、長野全体の森林文化を体現することを検討します。
・地域林業の状況に合わせて、入手しやすい樹種を使用します。
・特定の施工者に頼らない一般的な工法を採用することによって、 多期にわたる段階的な建設や、将来的な拡張等にも柔軟に対応できる仕組みとします。

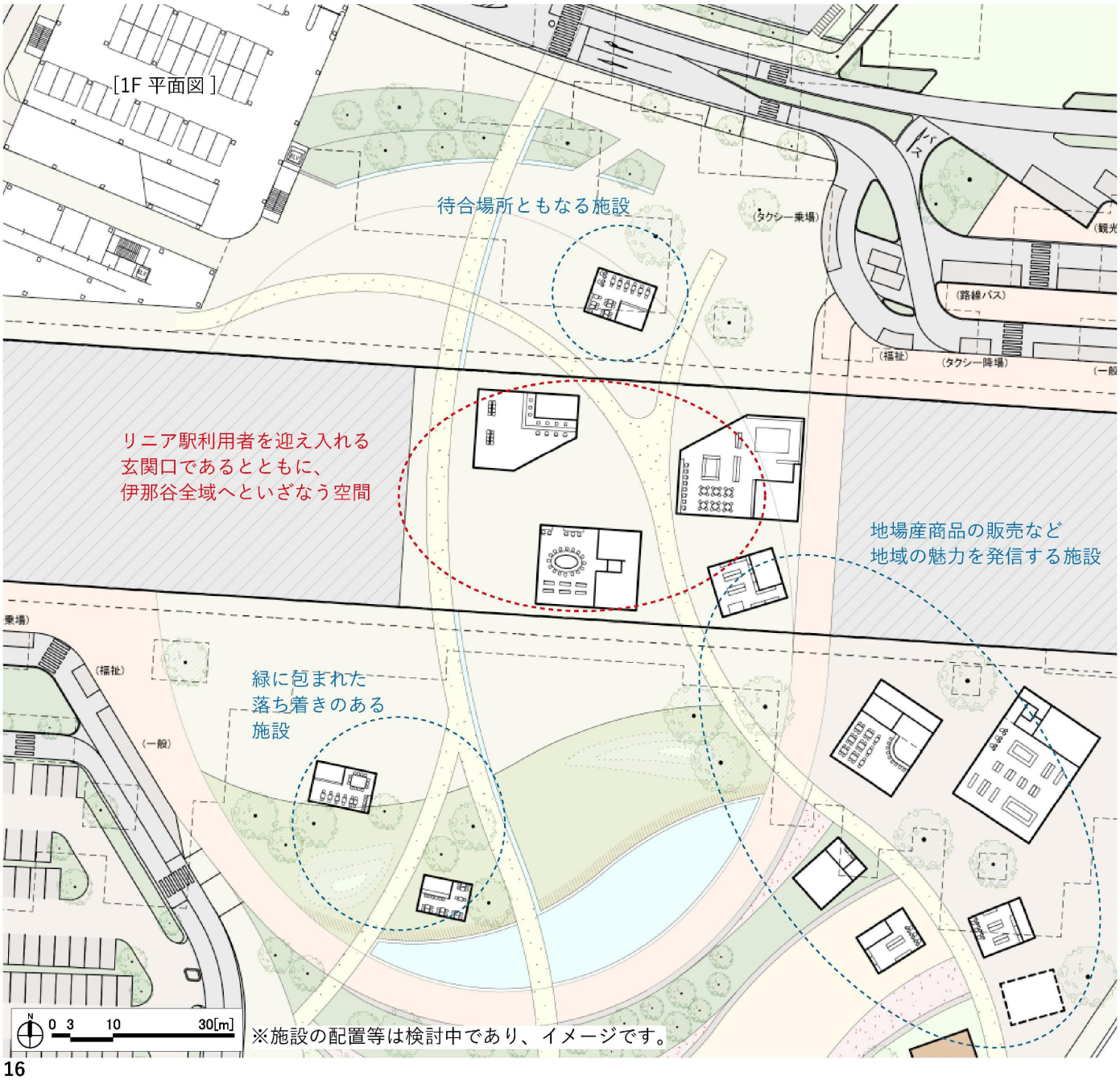


2019 年 3 月 26 日デザイン会議時点の検討資料のため、今後内容が変更されることがあります。

設計方針４：人のつながりと伊那谷全域へといざなう駅前空間

いざなう

・来訪者と地域住民といった**人と人の出会い**や、来訪者と地場産品といった**人とモノの出会い**が生まれる空間とします。
・長野県全域や伊那谷周辺の魅力的なエリアやお店、伝統芸能やアクティビティを伝える情報提供など、**長野県や伊那谷全域へ誘い出すきっかけ**をつくります。
・**近隣住民の生活環境を守り**つつ、周辺に良い波及効果を生み出すよう、敷地内だけでなく**周辺地域との回遊性を確保**します。
・将来にわたり活用されるよう、**運営者・事業者の様々なニーズに対応**できる空間とします。



※施設の配置等は検討中であり、イメージです。

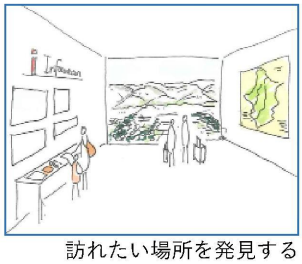
◆高架下空間と魅力発信等施設の施設イメージ

インフォメーション

リニア駅利用者を最初に迎え入れる玄関口

・伝統文化のディスプレイや、交流広場越しに伊那谷の風景を望むことのできる空間

使い方・過ごし方のイメージ



訪れたい場所を発見する



伊那谷をよく知る「人」に出会う

参考施設



由布院ツーリストインフォメーション
旅に関する本を集めた図書館や展望デッキなどもあり、観光情報に加え、くつろぎの場所としても利用できる



アントワープ港湾局
インフォメーションカウンターに、地域の歴史を紹介するディスプレイが設けられている

ライブラリー

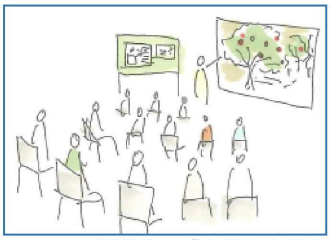
・学生が勉強で使う、大人が茶話会で使う、待ち合わせで使う、散歩で立ち寄る、仕事後に立ち寄るなど
地域の方が集い、居場所となる使い方のできる場所

・どんど焼き、盆踊り、獅子舞（お練りまつり）、自然の魅力など、**地域の文化・資産を伝え、見せる場所**

使い方・過ごし方のイメージ



自発的な「まちづくり」



伊那谷の「自然」を学ぶ

参考施設



都城市立図書館
地図黒板と展示台が設置されたコーナーでは、地域について様々な話し合いが行われたり、新たな情報が書き加えられるなど、地域の情報が共有される場となっている。

魅力発信施設

・農産物を売る場所（朝市など）、地元の食材を使った飲食の提供（店舗、屋台）、焼肉をうまく使うなど
地域の「食」を楽しめる場所

・結婚式、焼肉イベント、体験イベント、学生によるイベントなど、**イベントが行われる場所**

使い方・過ごし方のイメージ



伊那谷の「食」を楽しむ



新しい「地場産品」を共有する

参考施設



A Factory
県産りんごを使用したシードルを醸造する工房と地元の食材が楽しめるマルシェの複合型施設



銀座 NAGANO
信州との関わりを持つコアな信州ファンを増やすため、信州の魅力をまるごと共有するオール信州活動拠点

設計方針５：時代を先取りし、変化に対応できる駅前空間

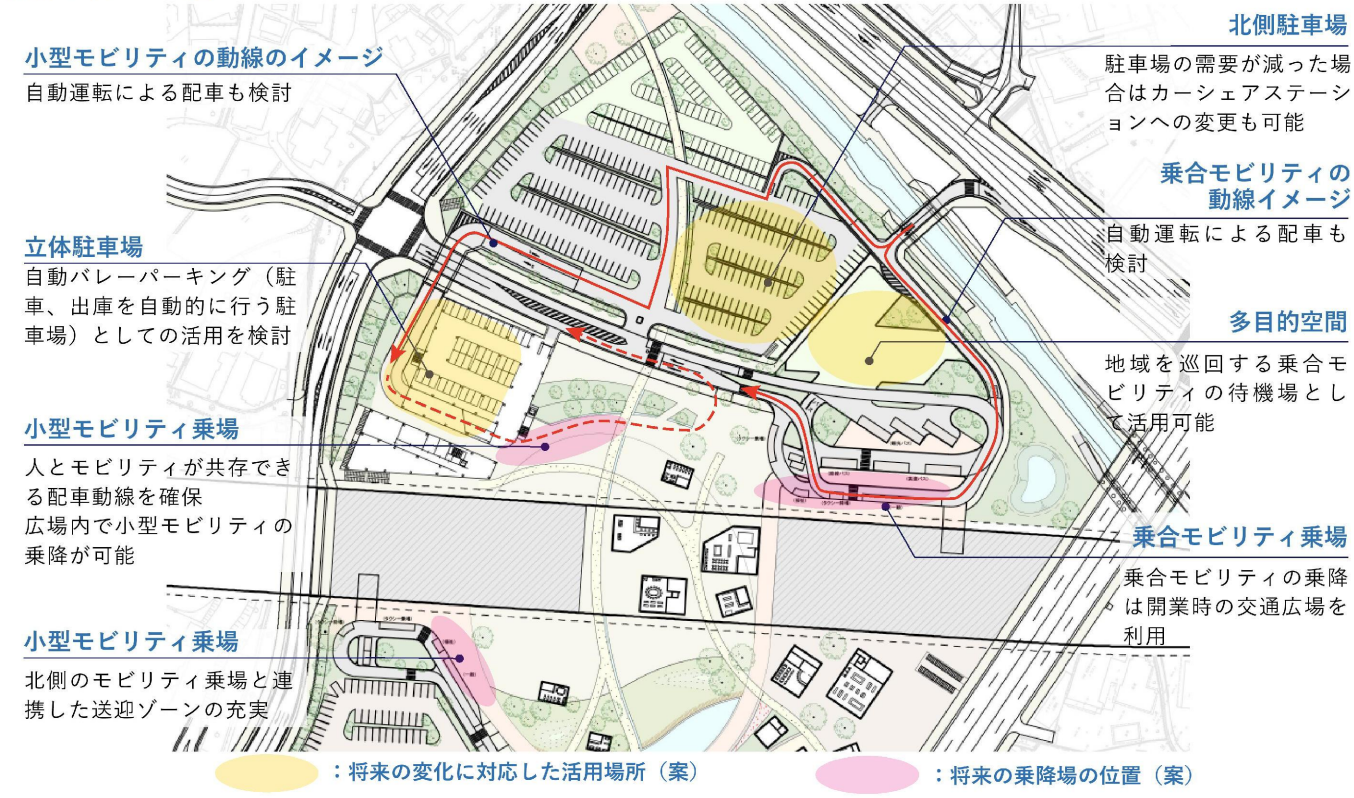
未来

・限られた土地を有効活用するために、平常時とイベント時など、さまざまな使い方ができる**フレキシブルな空間**とします。
・**自動運転や次世代モビリティ**といった発展目覚ましい技術や、**再生可能エネルギーや低炭素技術**など環境技術に加え、ライフスタイルの変化など社会のニーズにも対応できるようにします。
・**グリーンインフラ（自然の多様な機能を活用したインフラ）**を積極的に用い、**環境に優しく、防災機能と維持管理に優れる、持続可能な空間**をつくります。

◆将来への可変性：自動運転や次世代モビリティへの対応

・リニア開業後の交通手段や需要の変化に対応できる、可変性を備えた計画とします。
・乗合モビリティの乗降場は、乗降スペースが確保された交通広場を活用できます。
・広場内に人とモビリティが共存できる配車動線を確保することで、立体駐車場と連携し、短時間で配車・乗車が行える新たな送迎ゾーンとして活用できます。
・新たに必要となる自動運転車等の待機場や充電スタンドなどは、需要の変化に応じて乗降場に近い立体駐車場や多目的空間が活用できます。

将来のイメージ図



自動運転による人とモビリティの共存


出典：EASYMILE HP


出典：EASYMILE HP

パーソナルモビリティ・小型モビリティの充実


出典：RE WORK HP


出典：Dijon Metropole Tourist Office HP

◆再生可能エネルギーや低炭素技術の活用

地域の経済循環を創りだすとともに、地域内モデルとしての普及も含め、環境モデル都市飯田の取組を地域内外に感じてもらえる駅空間となるよう、下記のエネルギーシステムの構築を目指します。

エネルギーシステムの目標

①ゼロ・エミッションの実現
再生可能エネルギー・未利用資源を活用した『ゼロ・エミッション』や、カーボン・ニュートラルからカーボン・ポジティブへの発展を目指します。

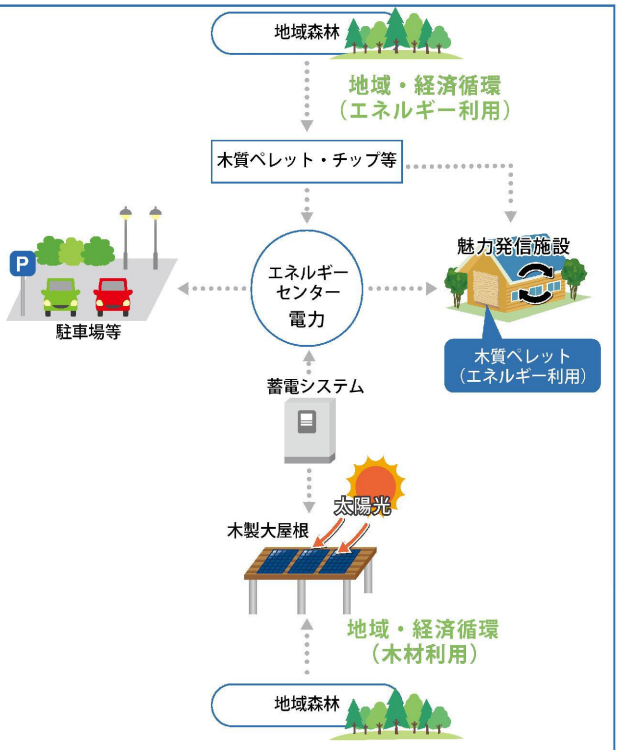
②エネルギーの複合活用と一元管理
地域の自然環境などに潜在するグリーンエネルギーの複合活用と、施設・駐車場等の省エネ化との融合を図ります。また、エリア内のエネルギー管理の一元化により、低炭素空間の創出を図ります。

③都市とモビリティへの対応
非常時のバックアップに対応する DCP（地域継続計画）機能を強化するとともに、将来的な次世代モビリティとの連携等も視野に入れたエネルギー供給体制を構築します。

④電気・熱のエネルギー計画
電気と熱の供給により、リニア駅周辺整備区域内で効率的なエネルギーの融合と面的利用を図ります。

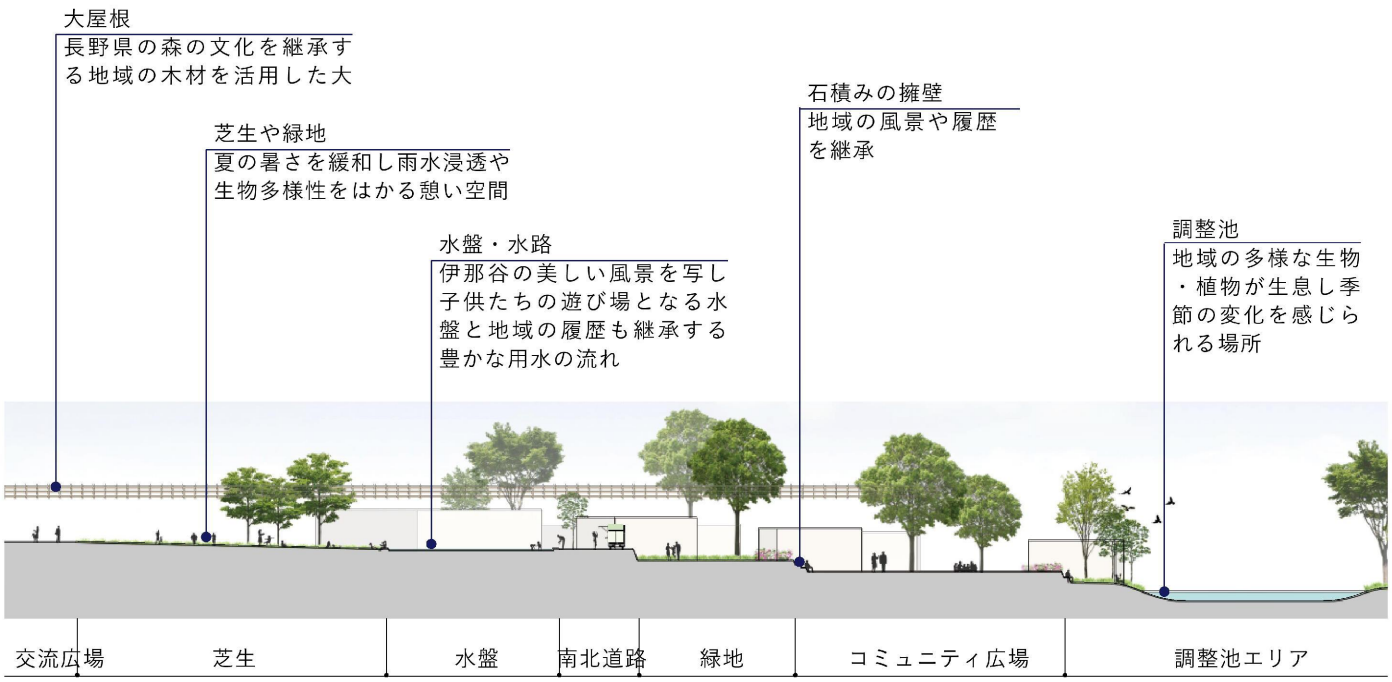
⑤拡張性・柔軟性のあるエネルギーインフラ構築
拡張性に優れたエネルギーインフラを構築します。

⑥「体験する・見せる」情報発信拠点
地域資源の循環とエネルギー分野における技術革新を体感し、環境・エネルギー面からの情報発信する拠点とします。



◆グリーンインフラによる、環境や防災、維持管理に優れた空間づくり

グリーンインフラ（自然の多様な機能を活用したインフラ）を積極的に用い、
環境に優しい気持ち良い空間の創出と、防災や維持管理に優れる持続可能な駅空間とします。



持続可能な魅力発信施設の運営に向けた仕組みづくり

しくみ

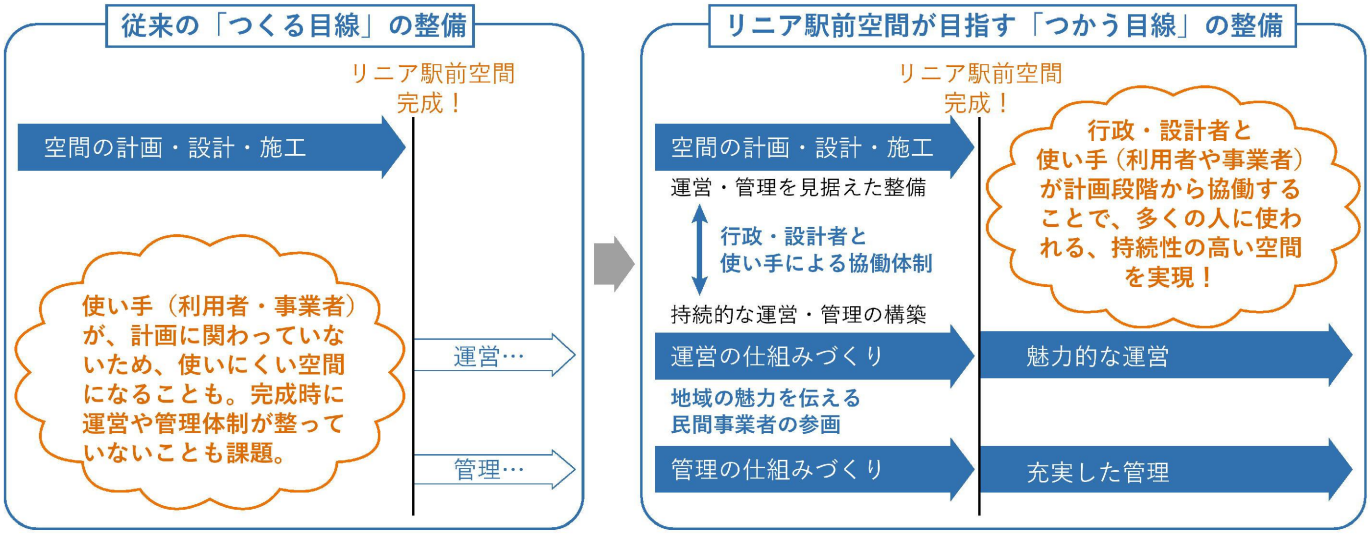
・将来にわたって**使い続けられる施設整備のあり方**と、**運営の仕組みづくり**に取り組みます。
・従来のつくれば使うという「つくる目線」ではなく、**利用者や事業者の使いかたを反映した「つかう目線」の計画**とします。
・**市民が主体的にプロセスに参加できるプロジェクト**に取り組みます。
・施設等を運営する可能性がある民間事業者との意見交換を重ねながら、持続的に「使われるものをつくる」という考え方で、施設整備に取り組みます。

◆ローカルな生活の魅力導入の大切さ

・国内における駅前空間や駅ビルは、特定の事業者主導による建物整備・管理運営のケースが多く、つくられた建物にテナント誘致をすることとなり、高い床負担力や資金力を求められるため、どこにでもある画一的な空間や周辺のエリア価値を高めることにつながらない消費空間になる場合があります。
・その場所、その時、その人ならではのモノが価値を生む時代に変化しつつあり、ローカルを徹底するとグローバルに突き抜ける時代です。
・リニア駅には、ローカルの生活の魅力を伝えられる、リスクと社会性をもってまちに投資し、事業を継続できる事業者の参画を見据え、本駅周辺では、従来型とは逆のプロセスを試行します。
・リニア駅周辺整備については、交通広場、駐車場、魅力発信施設など、施設利用者や収益性等の観点から多様な利活用が想定されます。
・今後、公的に管理運営が必要な範囲、民間活力に期待する範囲等の検討を進めながら、発注方式や管理運営方式等の具体化を進めます。

◆完成後の運営事業者候補が当初のビジョンづくりから関わるプロセス

・リニア駅の駅前空間については、完成後の空間や管理運営を念頭に置き、民間事業者との意見交換等を重ねるとともに、空間整備に先立ち、魅力的な民間事業者の発掘と当該事業者との関わり合いを持ちながら、ビジョンや空間づくり、管理運営の検討を進めます。



◆リニア駅前空間・市民参加型プロジェクトの検討

・「つかう目線」の空間づくりに向け、市民や事業者が主体的に参加できる市民参加型プロジェクトに取り組みます。
・具体的には、プロジェクトのアイディアと担い手を公募し、選定されたプロジェクトチームを支援することを想定しています。プロジェクトは、リニア開業に向けたものだけではなく、開業後も続けられるものも募集します。

例：地域の子どもたちによる植樹プロジェクト

・地域の子どもたちと一緒に、10 年後に完成するリニア駅の駅前空間に植える樹木を育てていくプロジェクト。
・飯田を代表する果樹や里山の四季を彩る樹木など、飯田や伊那谷ならでは樹木が想定されます。
・リニア開業時にみんなで開けるタイムカプセルなど、未来の物語と絡めたアイディアなども考えられます。


出典：魚沼の里（八海醸造）HP

例：大屋根づくりプロジェクト

・地域の森林組合や林業組合と連携した、大屋根づくりプロジェクト。
・市民に加え大学・高校、地元企業等にも参加を募り、原寸大のサンプルを作成し、維持管理の仕組みや方法を検討していくことなどが考えられます。
・リニア開業時までに、市内に大屋根によるあずまやを増やしていくことも考えられます。


出典：あそべるとよたプロジェクト HP

◆魅力発信施設など建物デザインのルールづくり

・魅力発信施設や高架下の施設といった建物群が、それぞれの個性を持ちつつも、まとまりのある風景を生み出すよう建物デザインのルールづくりをおこないます。
・具体的なルールとしては以下のようなものを想定しています。
　：南アルプスなど周囲の山並みへの眺望を阻害しないデザイン
　：建物群としてのまとまりを生むための色彩のルール
　：外部空間と一体的に利用できる建物の内部空間　など



◆地域資源を活かした再生可能エネルギーの仕組みづくり

・市域の 84％が森林に囲まれている特性を活かし、林業等の地域産業の活性化と、エネルギー自立に向けた「資源・エネルギー循環」の実現に向け、森林組合や民間事業者などの関係者とともに仕組みづくりに取り組みます。
・太陽光発電や木質バイオマスといった再生可能エネルギーの展示方法などについて検討します。



出典：とよた Ecoful Town HP

付録 基本設計の検討経緯

2017

- 第 1 回リニア駅周辺整備デザイン会議（2017 年 7 月 20 日）
- リニア駅周辺整備基本設計プロポーザル選定（2017 年 11 月）

2018

- 第 1 回リニア駅周辺整備ワークショップ（2018 年 2 月 21 日）
- 第 2 回リニア駅周辺整備デザイン会議（2018 年 3 月 23 日）
- 第 2 回リニア駅周辺整備ワークショップ（2018 年 5 月 16 日）
- 第 3 回リニア駅周辺整備デザイン会議（2018 年 6 月 11 日）
- 駅前空間の設計方針と全体の配置計画の決定
- 第 3 回リニア駅周辺整備ワークショップ（2018 年 7 月 12 日）
- 第 4 回リニア駅周辺整備ワークショップ（2018 年 9 月 25 日）
- 第 4 回リニア駅周辺整備デザイン会議（2018 年 10 月 16 日）
- 駅前空間のおおまかなデザインの決定
- 第 1 回リニア駅周辺整備における各種施設での事業に関する意見交換会（2018 年 11 月 21 日）
- リニア駅周辺整備計画の現状説明と意見交換会（2018 年 12 月 2 日）
- 第 5 回リニア駅周辺整備ワークショップ（2018 年 12 月 20 日）

2019

- 第 5 回リニア駅周辺整備デザイン会議（2019 年 3 月 26 日）
- 第 2 回リニア駅周辺整備における各種施設での事業に関する意見交換会（2019 年 3 月 28 日）
- 駅前空間のデザインの決定・デザインノートの完成

「リニア駅周辺整備のコンセプト」や「整備にあたって大切にしたいこと」について意見交換を実施
（参加者 37 名）





『リニア駅前でなにする？カード』を作成し、将来のリニア駅周辺をイメージしながら、どんな人たちがどのように使える空間・過ごせる空間になるとよいかについて意見交換を実施
（参加者 30 名（初参加 7 名、高校生 4 名）



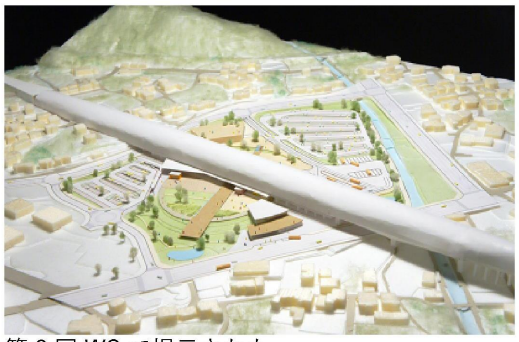


ワークショップにおけるリニア駅周辺空間のおおまかな計画をとりまとめるため、計画案をベースにしながら、『良いと思うところ』『心配に思うところ』について意見交換を実施
（参加者 26 名（初参加 4 名、高校生 4 名）

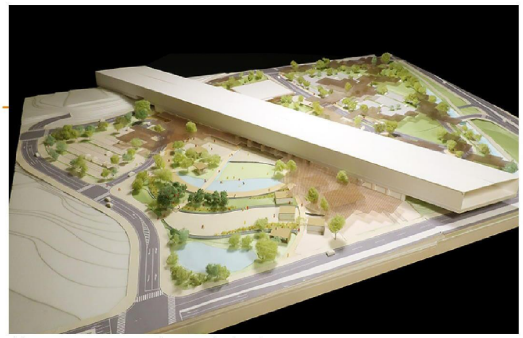


これまでの 4 回のワークショップの成果としてリニア駅周辺空間の計画案をまとめました。「シンボルになりそうだ」「ワクワクするような空間となった」などの声が上がり、全体的にはワークショップの成果として、みなさんの賛同が得られました。
（参加者 30 名（初参加 6 名、高校生 4 名）





第 3 回 WS で提示された
500 分の 1 の検討模型



第 4 回 WS で提示された
WS などでの議論を反映した
300 分の 1 の検討模型

副市長よりリニア駅前空間の検討状況についての報告と、高校生による発表を実施しました。

駅前空間の魅力発信施設などを対象に、事業の参画に関心がある民間事業者からのアイデア提案や、今後の施設整備や管理運営方法等に関する意見交換を行いました。

第 4 回ワークショップを踏まえてブラッシュアップした計画案や、デザインノートの素案を見ながら、これまでのワークショップでの議論の成果が反映されているかについて意見交換し、基本設計の内容をとりまとめました。
（参加者 27 名（初参加 5 名）



付録 基本設計の検討体制

◆リニア駅周辺整備デザイン会議

基本設計を進めるにあたり、駅周辺の総合的なデザイン、各施設のデザイン、駅周辺の景観形成について、基本計画の方針及び諸条件、土地利用や広域的な視点を踏まえた具体的な検討を進めるため、学識者や地域代表、関係機関・団体の参画による『リニア駅周辺整備デザイン会議』を開催しました。

学識者

小澤　一郎	(公財)都市づくりパブリックデザインセンター顧問
北川原　温	東京芸術大学教授
瀬田　史彦	東京大学大学准教授
大西　達也	(一財)日本経済研究所 常務理事
鈴木　弘司	名古屋工業大学准教授
上原　三知	信州大学准教授

地域代表・関係機関・団体

座光寺地域自治会
上郷地域まちづくり委員会
上郷北条まちづくり委員会
飯田商工会議所
みなみ信州農業協同組合
長野県経営者協会飯田支部
(公財)南信州・飯田産業センター
長野県中小企業団体中央会下伊那支部
飯田観光協会・信南交通㈱　※公共交通関係機関
長野県タクシー協会飯田下伊那支部　※公共交通関係機関
長野県 (建設部リニア整備推進局、南信州地域振興局、飯田建設事務所)
上伊那広域連合事務局
南信州広域連合事務局
東海旅客鉄道（株）　※オブザーバー
飯田市　※事務局

◆リニア駅周辺整備ワークショップ

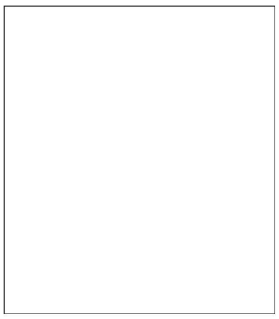
飯田市を含めた伊那谷や信州の新しい玄関口となるリニア駅が、将来にわたって地域の「顔」となり、「そこに集う人が主役の駅」とすることを目指し、多様な世代・職業のみなさまと一緒にリニア駅のあり方を考えるワークショップを開催しました。ワークショップには、高校生から 80 代まで延べ 150 名のみなさまに参加いただき、みなさまからいただいたアイデアやご意見を踏まえながら、この「飯田・リニア駅前空間デザインノート」をまとめました。

リニア駅周辺整備ワークショップに参加いただいたみなさま　（敬称略、五十音順）

◆リニア駅周辺整備デザイン会議委員からのメッセージ

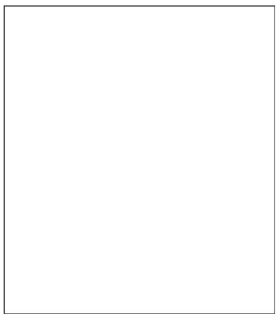
小澤 一郎 会長



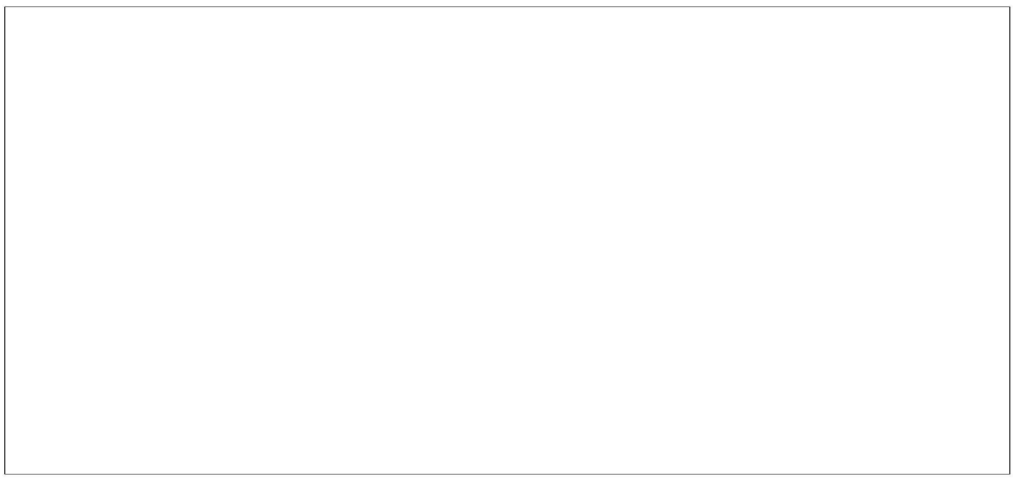


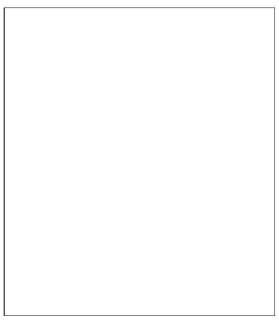
北川原 温 副会長





佐藤　健 副会長







発　　行　　長野県飯田市
〒 395-8501　長野県飯田市大久保町 2534
TEL：0265-22-4511（代）
URL：http://www.city.iida.lg.jp/
発行年月　　2019 年●月